

赤ちゃんの
思い出を
上手に残す
10のコツ



はじめに

こんにちは、カメラのキタムラの坂井田です。

抱いた赤ちゃんに写真を見せながら「ほら、かわいく写ってるよー」と笑顔で語りかけるご両親、笑顔の赤ちゃん、そして写真をお渡ししたわたしも笑顔。

こんな職場で働きだして、はや15年がたちました。最初はまったくわからなかったカメラの仕組みや撮影テクニックも、今では後輩の質問途中に即答できるレベル！ お客さまからも「坂井田さんってデジカメオタクだねえ」と言われるまでになりました。

そりゃそつです。デジカメの世界って進歩がすごく早いですよ。新製品が次々出てきて覚えることもたくさん！

もちろん基本的な撮影テクニックは変わらないけれど、新しい機能をどつ使えばキレイに写せるか、などなど「ワザ」の研究は常におこたりません。

そんなわたしから、これから赤ちゃんを育てていくお母さんたちに、この小さな本をお届けします。

お店でお客さまにお話していることを「赤ちゃんの思い」を出を上手に残す10の「コツ」としてまとめましたものですよ。

いかに書いたことは、誰でも簡単にできるんじゃないでしょうか。難しいテクニックは載っていません。

ただ、これから赤ちゃんと過ごしていく両親には、少しでも早く（じぎわれば今すぐべー）読んでほしいのです。このうのも、赤ちゃんの成長はとにかく早い！ ほんとに早いですからね。

冒頭でご紹介したお客さまは、二度目のご来店で抱っこしてた赤ちゃんが、最初に見せていただいた時よりずいぶん大きくなっていたもので「あれ？お姉ちゃんもいたんですか？」って本気で聞いてしまったくらいなんです。（笑）

そう、今しかないんですよ。赤ちゃんのシャッターチャン
スは。

成長の記録をすっかり残して、20年後に赤ちゃんが大人
になった時、家族みんなで見てください。その時の感動を
想像すると……ああ、わたしもぶるっときちやいました。

写真は未来の宝物。これは真実です。

では、次のページから「赤ちゃんの思い出を上手に残す
10のコツ」を一つづつご紹介します。

はじめに	1
コッ1・エコー写真の残し方	7
コッ2・「撮影の構図」おもちゃや風景も一緒に写そう	9
コッ3・「撮影の構図」普段写さないものを並べて、比べて、新発見	11
コッ4・「撮影の構図」家具や記念樹と撮ろう	12
コッ5・「撮影のタイミング」はじめての日の思い出	14
コッ6・「いざ撮影」の時のポイント「斜めから、横から	15

「いざ撮影」の時のポイント」自然な表情が一番	17
「いざ撮影」の時のポイント」明るさとストロボについて	19
「思い出の残し方」アルバムや写真集にする	21
「思い出の残し方」写真を使っていろいろなものをつくる	23
先輩ママさんたちの「コメント」	25
「オマケです！」	27
最後にひょうたん	29



エコー写真の残し方

赤ちゃんの思い出、とらっても生まれる前の話ですけど。

病院で診察してもらった時、超音波で写すエコー写真とらいつ

のがありますよね？それをぜひ残してほしいんです。

思っている以上に診察になりませんか。

でもこのエコー写真、ちょっとやっかいなことがひとつだけ。大抵は感熱紙かインスタント写真でできてるので、日がたつにつれて変色したり色あせたりするんです。なので、そのままでは残せません。

ではどうしたらいいか。



実はこれまでも何度かお客さまに相談されました。腕に自信のある方には「複写」というのをオススメしています。エコー写真を台に固定して、三脚に付けたカメラで真上から撮影するんです。写真を写真に撮るわけですね。でもこれって、照明やピントや角度の問題で、なかなか難しいんです。

そこで、手前ミノになります。安全・確実な方法として当社の「おなかのアルバム」というのをご紹介しておきます。これなら、エコー写真といっしょに出産時のデータや足形、命名用紙なども残せますよ。

ふたつ目のコツへゴー！



コツ2 「撮影の構図」おもちゃや風景も一緒に写そう

構図、とっつきと難しそうですが・・・要するに「背景からどこまでを写すか、何をどの位置にどんな大ききで写すか、とっつきなことです。

撮影する時、とっつき写したものをど真ん中に大きくもってきてしまいがちです。

とっつき写真も残してほしいのですが、もっひと工夫で思い出をもっと鮮明に残す方法があります。

思い出してみてくださる。あなたの子どもの頃の写真。

自分の顔より、よく遊んでいたおもちゃ、とっつき写ってるものや風景が懐かしくて、思わずほろほろと目がうるってこまったりとほろほろと涙か...

そうなんです。赤ちゃんやお子さまを写す時、そのまわりのものも入れてみてください。新鮮な印象の一枚になりますよ。

あとですね、お子さまの作品も。保育園や学校へ通うようになったら、絵や習字、工作もお子さまの笑顔といっしょに撮っておきましょう。破れたり壊れたりする前に。

それと、とっておきの一枚はこれ。赤ちゃんがやってしまった壁への落書き。あゝ、どうしてくれるのよ!と嘆くのは当たり前ですけど、消す前にカシヤット一枚。赤ちゃんが大人になってから見た時のことを考えると、ほのぼのしてしまいますよね。



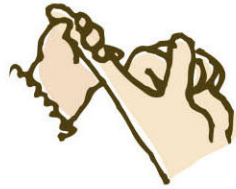


「撮影の構図」普段写さないものを並べて、比べて、新発見

またまた思い出してみてください。あなたの子どもの頃の写真。やたら顔のアップが多くないですか？

そうなんです。かわいいから、ついつい顔ばかり写しちゃうんですね。

こつで提案。顔以外も記念に残しましょう。



たとえば腕、足の長さ。これを、お父さんやお母さんの手足と並べて写すんです。するとどうでしょう！ 大きさや質感を比べられるから、これが楽しいー！ じゃ、手のひらを写してみよう、爪を、おへそを、足の裏を、ほくろを、口元を…とやってみるうちに、パーツ写真集ができあがりますよ。ぶにぶにの肌のアップなんて、いいですよね〜。

コツ4

「撮影の構図」家具や記念樹と撮ろう

コツ2でお伝えしたように、赤ちゃんのまわりのものや風景は、とってもしっくり出
になります。そこにもつひと工夫してみましょ。

成長がわかるように写すんです。

たとえば家具。大きさが変わらないもの。定期的にお子さまとタンスをいっしょに写
せば、成長ぶりは一目瞭然です。

わたしが子どもの頃もそうだったんですが、タンスなんて子どものキャンバスに
なっちゃいますよね。落書きしたり、シールを貼ったり、キズ付けたり。そういう思
い出もいっしょに残っちゃってます。いいでしょ？

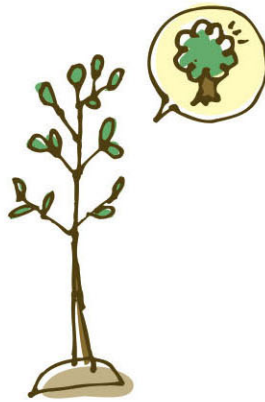
逆に、大きさが変わっていくものといっしょに写せば、それはそれでもおもしろい構図

になります。

たとえば記念樹。赤ちゃん誕生と同時に植えた木が育つていく。お子さまも育つていく。1年に1枚でいきます。そうです。これは、なんといい感じでしょか、このばでは言い表せない感動のある記録ができますよね。

また、お宅の環境にもありますが、庭の変化というしよに写す、窓からの風景というしよに写す、なんていう構図もありだと思います。

この時、田舎っていいな〜と感じます。バックに大自然があったら、その四季の変化だけでもいい思い出になりますよね。



コツ5

「撮影のタイミング」はじめての日の思い出

このコツでは撮影のタイミングについてお話します。

コツ4で少し書きましたが「定期的に写す」というのは、思い出を残すためには結構効果的なんです。1カ月ごと、1年ごとに日を決めて写せば、将来並べて比べて見ることができて、楽しいですね。さらに生まれてすぐの頃は、1週間ごと、極端に言うと1日ごとでもしっかりと成長はわかりますよ。毎日写して365日分のアルバムというもの、ちょっと大変ですけどおもしろいかも。

その定期的な撮影に加えて、もう一つぜひ写してほしいタイミングがあります。

それは「初めての」。

「初めて食べた日」「初めてはいはいした日」「初めて立った日」「初めてしゃべっ

た日」…。それぞれ、何を食べたか、どこからどこまではいはいしたか、どこで立ったか、何をしゃべったか…をいっしょに記録しておきましょう。

アルバムがあるのなら、それ用にタイトルを付けて、ページを空けておいてもいいですね。



「いざ撮影!の時のポイント」斜めから、横から

さあ、写すぞー!という時に、ちょっとしたポイントに注意すれば、できばえが変わってきます。

まずはアングルについて。





アングルというのは、簡単に言うと写す時の角度のこと。これは顔の表情を撮りたい時に一番気を付けたいポイントです。

まずは、生まれてすぐのベッドにいる赤ちゃん。どうしても上から構えてしまいがちですが、それでは平面的になっちゃいます。**なるべく顔に近づいて、斜めから、横から、というのが表情豊かに撮れる秘訣です。**

少し成長したら、このポイントはさらに重要。はいはいを始める上から写したのでは赤ちゃんが上向きになって苦しいんです。赤ちゃんの目線で写すことで、自然な表情が引き出せるんですね。

なんとなく、子どもの世界がわかった気になったりして。

また、それによって思わぬ効果も。なんと、赤ちゃんのほづから寄ってきてくれることもあります。シャッターチャンスですよー!



「いざ撮影！の時のポイント」自然な表情が一番

写す時の環境も大切なポイントです。

プロカメラマンが口を揃えて言うこと。それは「カメラを意識している子どもの写真はつまらない」。

そう、子どもは遊びが仕事。**無邪気に遊びまわっている時が、一番いい表情なんです。**

笑顔はもちろん、困った顔、泣いた顔も時にはいいじゃないですか。自然な表情こそが、子どもそのものなんです。(たまにはカメラ目線でいい表情のお子さまもいますけどね)。

カメラを意識させない環境をつくりましょう。

写す側が緊張しないこと、いつもと違った雰囲気をつくらないこと。

それって、べつすればいい...

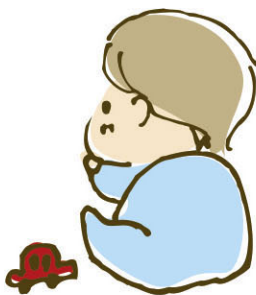
お子さまに安心してもらうことです。一番いいの

は、お父さん、お母さん、兄弟など家族みんながいる
時。安心して落ち着いているし、笑顔でいることが
多いんです。

カメラを構えて待つんじゃないくて、ふふ

**ふふん、と自然に振る舞いながら、こごごだーという時にパシャッと撮りま
しゅ。**

それだけ気を付ければ、あとは、失敗してもどんどん撮ること。デジカメなら、何枚
撮っても損はないですもんね。





「いざ撮影！の時のポイント」明るさとストロボについて



明るさだけで撮りません。これ、基本です。

室内なら、日光が直接差し込まない明るい部屋がいいですね。外で写す時も、日光が強すぎると逆光になったり陰が強すぎたりするので、**明るさ優先で撮る**から**光がきつくない**。

とはいつても、そんなに都合のいい明るさばかりじゃありません。

背景が明るすぎると、逆光で顔が暗くなってしまふ・・・そんな時は「日中シンクウ」

というワザをオススメ。難しいことはありません。フラッシュを「強制発光」にして撮るだけ。顔など影になる部分にフラッシュの光を当てて、背景の光とのバランスをとる、という仕組みです。近寄りすぎるとフラッシュがきつくて顔が白っぽくなってしまいますので、離れたり近づいたりして何枚か撮るといいです。デジカメのストロボ設定は普通「オート」になってますから、その時だけ「強制発光」にしてください。

また、もし画用紙など大きめの白い紙があれば、それで影になる部分に間接的に光を当てる方法もあります。プロは光を反射させる専用の板を使っていますね。

ストロボって、暗い場所だけで使うものじゃないんですねー。すごく便利!



「思い出の残し方」アルバムや写真集にする

撮った写真をどっやって残していいのかな？

まず最初に考えるのはアルバムですね。工夫すれば、つくる過程も楽しめます。

ネットや書籍でもいろいろアイデアが公開されています。共通して言えるのは

「手作り感がいい」や「思い出が思いあます」。

写真の下にカラフルな紙を敷いてみたり、コメントを

書いてみるのも楽しいですよ。

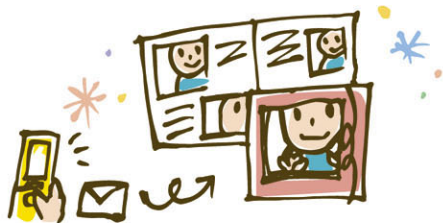
それと、**自分で作れる写真集って、ご存知ですか？**



1冊の本のようになる写真集は、アルバムとは違った魅力があつて、物語が続いていくような感じがわたしは好きです。しかも、その物語は世界にひとつしかない、オリジナルストーリーなんですよ。

最近では、最短30分でできるスピード仕上げのものから、人気キャラクターのデザイン、本格的なハードカバータイプまで本当にバラエティ豊か。

家族で楽しむだけでなく、プレゼントとしても人気急上昇中です。その中でもお母さんたちに人気なのが、ケータイで撮った写真から作れる「チューミー」です。作り方はカンタン。写真集に入りたい画像にメッセージを付けて、ケータイメールを送信するだけ。



忙しいお母さんたちも気軽にチャレンジできますよ。

「写真集なのに1冊から作れるんだ」「ネットで注文できるって知らなかった」「値段はもっと高いと思ってた」とよく聞きます。

詳しく知りたい方は、ぜひインターネットで「キタムラ フォトブック」と検索してみてください。



「思い出の残し方」写真を使っているものをつくる

最近は一般的になってきましたから、とりあえずまとめておきましょう。

年賀状や記念ハガキはもう当たり前。今ではカレンダー、Tシャツやマグカップ、パズルにも変身します。その他クッションやキーホルダーなど「こんなものまで」と

思っようなグッズがたくさんあります。

もう、しっくりと思えばなんでもできちゃうですね。

自分で使う、プレゼントする、思い出として残すなど、用途によって最適なものを選んでください。

さて、これで10のコツはおしまいです。

次のページには、みなさんよりひと足先にお母さんになった、先輩ママさんたちのコメントをそのまま載せています。



先輩ママさんたちのコメント

「私たち夫婦にとって初めての赤ちゃんが生まれました。

待望の赤ちゃんだったので、記念撮影の時にほろりと

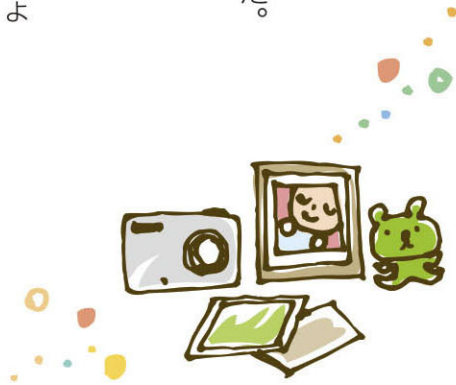
泣いちゃいました。

この写真を見るたび、この日の感動を思い出すんですよ。

うね」。

「今年3歳になる息子に、妹ができました。退院して我が家へ帰り、さっそく

親子4人で記念撮影、と準備を始めるも…娘がだんなの腕の中で泣きやみません。



すると、これまでわがままし放題だった息子が、妹を一生懸命あやしているんです。今だーと思って息子と娘の2ショットをパチリ。一生の思い出になりそうです。

「娘が生まれました。夫は早くも、この子がいずれお嫁にいつてしまうことを思って嘆いています。記念写真にはその複雑な表情がバッチリ写っていました。あちゃー」。

「息子が生まれたのを機に、毎年年賀状用の写真を撮っています。今年で4年目。

私が年々老けていくのと対照的に、息子はどんどんたくましく、立派に。

さびしくもあり、うれしくもありだね、と夫と話しています」。

コツ
10+1

オマケです!

最後にひとつだけ、オマケとして「あら、ほんとに便利!」と好評のネットプリントを紹介しておきますね。

ネットプリントって何ですか??

パソコンさえ使えれば、デジカメで撮った写真をお店に行くことなくプリントにできるサービスです。赤ちゃんから目が離せない、忙しくてなかなか外出できない、そんなお母さんたちに好評なんです。

簡単に説明しましょう。

online
Print!



- 1・専用ソフトをホームページからダウンロード（店頭でも無料配布しています）。
- 2・デジカメで撮った画像を専用ソフトで送信。
- 3・宅配便でプリントをお届け（店頭で引き取ることもできます）。

すべてが家の中じきるんです。

しかも受付は24時間OK。赤ちゃんを寝かせてから、じっくり写真を選んで注文できます。

専用のサポートダイヤル（年中無休・10～20時）はこちら。

050・3116・6666

まさに忙しいお母さんのためのサービスです。

最後にひとこと

カメラのキタムラは、みなさんの思い出しぐりを

「プロ」としてサポートさせていただきます。

わたしの他にも全国のお店の店長やスタッフが、みなさんをお待ちしています。

カメラのキタムラのホームページから

「店舗ブログ」ボタンをクリックしてご覧ください。

いろいろな情報をブログを通じてお伝えしています。

「キタムラ」で検索してください

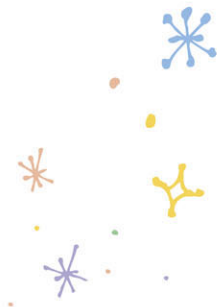
キタムラ |

検索



カメラのキタムラの坂井田がお届けしたこの小さな本を、

最後まで読んでくださって、本当にどうもありがとうございました。



思い出をキレイに残したい…

写真のことならおまかせ下さい

